13
2132
49

序

粉(こな)にまぶしたる濃交(こうまぜ)。ふハ堅(かた)き
流(ながし)人(びと)も横(よこ)ぢからにおそれつる。おもふくに
両國(りやうこく)織(おり)といえる。儒(じゅ)よりおそれで
おもくあへぬ。心(こころ)おぼしもよらぬなり。
此(この)山ハさしふの法(ほう)をもて。夏(なつ)さ
ゆるるなり。寒(かん)中(ちう)。猫茶屋(ねこぢやや)の鼻沢(はなさわ)
女(をんな)丸(まる)心(こころ)の冷酒(ひやさけ)と。かくて去ふ

49
18番
2132
49
93

善光寺。彼の山を道すがら。国の風
沢をさぐるに。光を豪傑の。旅
蕩をのふ者をば。はなはだ
まるしのおく膳を設を待受ます。
寝蛇迎を穴を説くて。めたるふ
人の勝をおぼえもせ。太るを雄ふ
ことをんをけ。永はけるをとらむ。
さ抜を仕るを。虚を以ることを

こえ。因をを戯をして。人に
をもの深くおをと信じ。先をみーを
鼻毛を浣ひ。青よ口ぜー嗽ふー。常を
を掻をて。おをきを目を輝ーを
をを。彼印文ふなをー。低城
貫の印可をけふば。凡まをのを
国をなを。四角ふ人も忽ち。ぬく
なをを家中のぬく。いふ石祁も

やりかた。山屋なるものの口あんまて。
訪て自在なる女たちまて。
一事千金まさに鳴呼やまん
うるまず

安永七戌冬

田一金魚述

目録

○才一 戯化品 女業化粧尚足之穴さら
○才二 口説品 恵方丸ら勝山口舌化ゑん
○才三 探穴品 拙らきふ生ものたまの禅
よ光の二廓入低徊の貫引
床みせくみ殷指切の幸ろけ
よ光の二ろ肌差女のあくみ

○才四 羅刹品 拾ふ兎は横紙 赤尾田の大じん 鬼のくせ地 宗子の弟と云て助

○才五 轉倒品 胡麻の打ち方 山下文の終文 うれる子の傳 日延の来由

○才六 立情品 十光の俄心 勝山の著 十助の忠孝

○才七 前生品 赤ふせ紙ぶせ 印文の功力 鏡ふくれる編笠 心中の死扶 了ふみよ裏鈔

○才一戯化品

女来 のふ〳〵義光いばくへ 与太 ワしはまぐ

よし系を見ごいるぞよ。一見せぐ色〳〵拾 女来 これハ

ゆきぐ〳〵。男も一日のさんけいれ。その汗をきに

ちよ〳〵ワる〳〵チト川風ふ涼まんと。ひとりあッて

出るけしぐ。宝盛て入る時ハ。まさちろてきてふと

いふぎ〳〵やしく〳〵のさん物も。小粒小刺でゑ才

三ぢ。南鐐が二百枚。紙にして。千百貫。地代
新用さ一引て。まい日殘るが一三が三百兩。梅
うへとハちがッてア、金がほ〳〵なり。ぢ〳〵が
へそうゝ後。ぢこなあるばかりにて。殺さぬハとん
よく〳〵。紀文。高尾茂この好こハ。うれぞいふあも
みへぬハ人がけちよなッて。ぢ〳〵こゝる。ぢておれがらう
さ〳〵。ぢか大臣と分とあり。地位のめ末
孫釈迦や太子紀慧せいしそちたちまて。のこ

らぬ。かゝるうりはれん。兵衛天ハさしがめおどりこ。
中ぬ下でびゝひゝを。かアゝ毎〳〵びんが頃〳〵をたゝ。
おい孫もあさもてしれぐらふ。ぢさがあまもこ
十年末。いぜんとハよ〳〵系もうれてがちが〳〵ど。
土地の大通ぢ半の。紀のぐをたいこ引
つれ。れに百すハたゝせん。さて南世のぞ
ぶゝ。如印をとゝうす秘密といつハ。四十八歳
そのまに。四十八よとゝうぐさき。床よ入ってハ

きまりぬ。こんこん猪とき、たのハー。西の
ゝゝ山大俗のうぬぐれやゝとさいぐせん。
すぐまゝかゝ拵ちよちよんのり。あをゆれ
おのとで。ただこすたゝ〜ゆきぐ。とゝゐ
そわゝトのゆゝ。よゝゐゐんぐゝげんとゝ
なきぎ西どんとおつちぐぬき。大孔紙とそゆ
ぬきし。おいろはるぬぐひとむゝはちまき。ぬぢち
く。かりしゆゝて仏ゑむゐ

ヤおまへハくぎぢちぐつゝ。ぢしうこそ俗俗
なり。こ國伝来のこぐ如来。けいせいゐひとハゐる
じゆれく。それこうゐまぐゝ。だんぐをアさゝ。よゝ
たぐまだ。ぎゆなゝそワる 女来 イヤいよか。なんじ俗
体なれぐそ。やゝひとゝる妻もつ者。かの女ハ
邪いん戒。おれこハよゝせゑしいこと。ハなゝ味
なゝぐゝ。西ゝひゑ毛すせんと。ひゝいこゝ
いゝこで。きんごんだゝにぐゝく。ゐてふ

ぬハあさゆがれこぶ。ちんやちいろ風車。子
どもだまし。じやいろはあのこの。トたゞ人ゝ珍と
かゝるその爭ひ。祢ぢやうハ義こあゝ。それバ本堂
こう記つゝ。そうけつけえれバ本をぱじめ。
ト光ル三ぶし。やうひのまゝ。[illegible]。
ハイあちゝ人ハ。夕さゞみとやゝて出ました。
女衆毎ものゝ。トゝふまで。ぞさてゝ。
川ばゝとさゞせゝ。ばりいふうの青やゝ。あて

どもぬれぬゝあるバ。人さゝ揚ゝて白髭ゝ。ち
よいゝとなで。ゝバ。忽光明ひゝ。揚ゝと
ゝあゝや舟の人。死光と思ひ一回ゝ。玉やゝと
ゝ。ゝ。ゝ。

世を惜て。情は天蓋。泥鰌はおどり。
かこひは大こく。子は舎利と。表向をばた
しみて。今は和尚が娘と成せ。やっさもっ
さはそっちでせ。ぢんぺこぺんに俗ようはふ
しやうて。義たまえ記ちまうと。主人四郎
にうきかとあり。切らせの童そうこ。いう
この喰をしやれとくんな。成程かぶきま
くらちしか。秋はそみぢょうがんの吸物。か

るしやれ者となるるも。そなるめのおうらかも。
一切花生をひらげて。なぜふぶ深そなるめ
トなるうかさうれのまへば。ねぢやうのせふりを
なでうすち。もうすぎおうりれ。
女来 こうれはやぐぐで。けんまうりふは記うつ
きて。きやうふうさとよ見ぐ。まぢちで
ぎしるがおうさ。かうぷてんさをうさ。
さうなら。昔森王戦女軍。大将孟

ゆうぎりの

遊以色欺之。遂孫其國。それハ國
郡をしハ衰憊。今ハ如ハ原へ出んる。
全く遊のさまよりに。罪あるをぬ
たるゞしの分ハ。ひけれ苦界のたへくく。
おもまゝまゝ出まゝ。ゆゝ色ゝ分
を恐め。ゆゝとその乱もきゞ。中まゝ
信心為起して。用法へまゝさふも。内市
やゝての乱しか行ゝ。新遊ゞも始分ゝ

ゝゝや。弱分の主ゝゝその日始新刑。先大門
の切ゝ書。名ぬし出役門書まで。そゝ
はけとゞけ。そのふかりおびしく。
でゝもぬ裸の花見。そこてたちからおを
むひて。ゝゝと救ひゝつゝさ
その〳〵とハちと内ゝ。ハゝ。まゝれば
ゝゝて。よゝ光とゝゝれ。先あゝごな
させゝ。その上来臨ゝゝバ利

蓋ふくろ　[女郎]　それもそふいへそんなら
よ[女郎]　[下女]　それごらふじ。おれ
がいつてやつたらいつわるあるあのんまう。そ
るかアあんめいて男ア
アはるむなひ。あらばあらいくさん
ト[下女]このハ。ちやんのおうさまだ。ひだり
めんのゑんどーゑ。[男]　[女郎]ハ光明ニさぢの[男]
はうく。梵字ふもんの紙のくゆ。けハ長く。

月代ハミがかく。髪ハ赤の大丸ゆまるハ
そくよくそんぶどこんたでこへの中ハ紙ひ
そくふくてあるうもの。さきそれ糸のまんぢれ。
こぶれ利ハのおとーばーらハかりの蓮の
葉一枚。川よへなげ入て。なるくくと
よをかバ。そまびぐ忽ちよくなる。こ
れよびのうよーえハ。推木やしき
首尾の松。下どよハしもび出人をあハ

たーうお秋ぞ
ぞーじやアねいら[ゆき]たれ
うこーりて。いうてきれねい[ナシ]ようわ
く[あき]ちーくるびーうこ。のか[ナシ]わ
いか[ゆう]きーく。あッつのいイふトれをさうちんこ
ようさつぎふぐう毎ハたびひこぬをすぎる
そもかやで所のお秋ぞうぱうこーの恵死[きび]
西[せい]。口が胡の小所[あき]もあるーおれぬ媚[こび]の
こなーた。秋のこびーきなれ叶秋ればうぎ

やふ。序[ことさきよう]上除[ようさつ]奥[おく]が[ナシ]ぐーぢーちーと言ふ
ぐも。人のきろとときめてそのきらーさき
ぐ巳さ。ぢれてきぶぐも名ーあふ。秋ふゆ
かーのきーよや。月のかんきもきのーう。雪
ー結ーくふ嵯峨[さが]峭[び]の春。さーふ越後[えご]も
ほーうなーた。ぐーてはいうぬ香[こう]菜の陽[ひ]ハ
ぐーいーうね業[ごう]もふ。南付けいー元
来一ーう。こーこーう。おーう

く年始にまゐる。一ぬ（ぬ）ぬうハ大人見ゆ。
みちちゃうづにてよび出し。お杖ハ[illegible]
よりもくとらの目（ぬ）ぬうちんの口あひよりうハ胸ゝ行
ぐ也てあれ〻ちうぼうん。そて凡まゆんなりたる小紙
かるおけうちゃうにていうちゃうぬきてこめづ出ち
ちゃうぬおらいさげぬはぐ。毎年侍の来ちゃく邦
にひれてりて おうてひく牛も来ちゃく只ひう
れまゐる山々之大ちんぐ月ゝ毎のうちて

いつしうて毎ちゃうて行乳山とも
多ごへ。たちんぼよりまあうう。堀八
丁ちゃうもなく高ちん坂でハ毎月たうた
風ぬ。まへとあうる也かちをぬぐひ。先大門
へまちりてちのれバ。毎ちゃうし月なこのも
んぬ日まて。ぬさちの杖君ぬ。色香たゝふ
その風情。右ゝ撰よ左ゝハちみちゃうぬ此
立四もかなゝねハ。ぬちゃうかしうぬまみる

て。そう〳〵ふみ所のぽかのやへさらうれば。
てい〻ハさへねど。かう〳〵ようそれ。[ろ]それお
茶たべそんぞ。おさうき。ちまいものをよく
しやそしてあなたの食ぱどさへおぜいいて
へ。[ほんた]いやみるハらいちんどかくなるき
けいせいうおさい[ろ]さあ〳〵なるひなづるさん
うなおさん[ほんた]そりハちとつよすき
ハしよまいうや[ろ]アリおッしんすそんなり〳〵

ちまかひかづるさんと。ハイトいすう茶かハけ
ぜーんやさゆうおすりなるおわふ
[ろ]そんなるれの井さんうちむさん[茶や]こ
れも中ちよあちさんと[ろ]そてどなさに
したものぞ。ちつとも出ぬ拙ハしいせんう
[ほんた]それハ中こうトさあなたそさアちうか
[ろ]ありかぐふそんまするしおてそちん
おんきものおんそうのおそうクトよう云の

ゑうとなるべしゝそんなら出越りて
ト云ハさきゑ。てゝちんゑゝ。先角ばる
ゝ。拙ぢやゝ爲やゝまんぢ。ほるやたりゝや
かぢゝふや。大ひーきりひーゑちんやふ拙
山ゝゝ大ゝふや。ゑひや泉田や玉ワ子。丁
ゑやも中ゑハあぐゝ。かゝの芋やゝ村ゝあゑ

十六人

ゑれなゝれハこてゞこの〳〵谷ゝみ。お
りづるゝとぬぐぢなゝれゝとあんまりあゝいゝと

ゝとをぬゝふ。さてコヲ丁一ぺんゑまゝゑゝ。
ゑゝんとゝしバゝるゝあゝハふひゝの。その中に
一枝濃艶ゝて露香をゝすゝもゝふ
べきハ。拙ゝでゑゝゝのじゝ。いゝてゑゝしバゝか
むさんゝ。そゝしなゝるバ中ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝてゝゝゝゝしバ。あまゝけんゝる海後
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝんゝかゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝけバゝゝゝんばゝ。ゝゝなゝ。今ゝ

中あるを。あちよふ足へても。床へとりて。
あまひのおとろひもの。又立ゆしば今
あつぐ。あげくとゝ足へ引ただこゝん人ゝいハ大
きよくとゝびきて。ゑ柔やゞくまきのごとに。
きゝ〳〵おんでもかまハぬ。ハつめやの指ゑをの
ぞけバ毛さんゑゝゝ独。あちゝむいてあゝ
くやつ。まゝ〳〵おいつと二ひへあげしハ。あバ
ゝ〳〵あゝて出るけいさい。白彩の七へんぬゝ

あよりふあハ。ユテゑゞゝいゝてだかをでも
あゝをのゝ。まゞかゝ〳〵ちておゞをしバ。白
でこゝあし大粒あゞ。あいつハあめんざ
なきけふや。ゑゝよゑのてこんふやけゝハ。
こしもあ末のゝ。ゝあ。ゑ右孫の引
ゝ。トあきゝめなゝらゝゝでゝさゝゝづきを
もいきみなゝ。らん洲赤さゝゝゝさて。ゝら
ゝゝぶいてのむただゝ。ゑなるかゑ被けいさい

なべみのおもてをこわれ。ぱせめてものこと
けっぷんをなをしゐ葉やハかけとうぷんをとのぞ
けばうんかわげんてぐひさしした鍋四てのうら
ゆんとうるゆーにぴーりゆのこうおさきんぞーのかんざー
なげてあるゆ風情。

[ようかん]

ようかんはーまてそしハ者
おしもたウよりうとうへ。さアーそりゆトかち結ち
ようえんうーのうきハ者んがらーくいで

きうる。ゆ者ゆ者ゆ。ゆ西ゆまれバ。おもゆまゆで
ハ者を海。ゆ肉お本張。菜ハのうに魚あれ。
ゆ。ゆ結口ゆ香のあて。さーくゆとちゆづけ六ぜん。

[ようかん]

ようかんはーヨヤソうてようくこのうなんさう

[ようかん]

十二たつゆ六ぜい。おらア國うきゆゆとゆぐ
ハおちゆけゆとゆ七ハえいぷぷハ。ほゆぐゆ。ふ
なうて。ずゆきうゆゆない。ゆィまのれをうゆ
ゆ者のおゆひつきハきたゆ。ゆをなゆ乃

まるのハさ　よりうけーきがよ。ゑやうの者
の色とくる。ゆ吉ゥ人ハさ面くのおろし
みよりうまぢ　ぢうぎ面とつまぐう。ロがつ
くの色まくく

○京二口説品

ゆく用燕の季敬ハ。桑を採る婦人
を画て。辰メこれと慕ゆやのハッ
月やよ名ゥ　ゆふかつせいけうハその

ふ使ケき　ゆ吉ゥ　さ。全豊なゥ面とのゆふか
くゃ気象ゆしき　ゆのゆぐゆうけう。詩付
画向侯の冨姫へ　ふでーふ　ゆぎなるふか
よ光の。未像と　ゆとそ　そぐ　ゆうたも
かる男あゥぐ。ゆつと思ゆが無のくせ。お
を加げ　ゆる人あゥば。ゆを　ゆーてふか
おゆぐ。ゆうゆき　ゆのゆのまも。ゆとら
れ面ぐなゥ　ゆし。さくゥ井の秋山女。

古今ふまれなる名重たりしば。けくと求メて下〜光の。生るうちきさらに重と。新よ
庫よりかけおきて。香をとゆ〜むとい什。
祈る新ひもかなうぶだ。そうさいなぶが美
光さん。ぬ〜のすぐさま毒なぐも。にさ人
つうばお情よ。あり〜てふぶと一さぐよ。泪
あかけきれうに。さんぐ〜れさうぎい。あ
いじ〜かけまう　きさらき　こしおいんへ。

お出なん〜てうちがかきゅう人をからふぐい。
　うつ山　なぜどんふ人ぐ。なんぐらきにいうれ
そうさ。おまへの色男をうなんさそう
ちがきうさく　きさらき　そうふぐやアおぐんない。
まうあおあひぐなんー　うつ山　だうらーいふ
人ぐへ　きさらき　いくあき。この北かけぐふとんざよく
小ていなんさ人でおぐんさ。　うつ山　なんよう
トいくなう。廊下をそのとせ。せーじのさきが

あばーさんとしる。[さてさき]さてのあつちへおあ
いびなんと　トさてさぎよ袖ひろれ。のうあ
げよ。ひろざーきへきて　[ろう]ろうんよう〳〵小て
いたんさて。いつそぞふきいせね。[さてさき]そう
ろうて。あげいさてさ。おなんでなんさか
[ろう]だかしい。ちちがろうんかさとさちやア
ちまういさてまひ。そてていろうもさふんす
おまへが。さてあてもらく　[さてさき]なりアお地

[illegible]ぞりやアおさんさまあーぺ。さてやりてしが
あつても。ろうんりよハおさんやぬ。まアろうちに
おまりせなんと　[ろう]ろうんならどふも。いく
やにてろうんあ迷トらふ丑へかいとのまりさ
てぞさんもつお床をまハーやーさ　[さてさき]
いつてめりいせトりかぐわりへやのせじさ
なけて。まふおやさてさなんさうへよまん
ハかやの内　たでさすパく者りはまりどや

おそろしく絵の風情をしおさうなん
ト申さうとさせうとかうひらとたんをへち
そうのおてびん。その弟もねまきをきざ
うて。ただこすのけっさ出さアかんと
にねなくてうふんしート撫ゐあり仁板ア
すぐーうおざんそれ（下本）おれハひらい
まで。ひつくなつて（さてうき）おりこいさてよ（上本）
そのおぐましかるよ。あきさてそう。（さてうき）だうら

しうおざんそ。もーぬーやアどこておざんそへ
ト云えこけてそうそてハ。一板なぐーもきゆうかと
そうまつ（さてうき）文魚さんと。おつていふん
きそう（下云）ウイ、いんや（さてうき）銭菓さんハへ
（下云）なふあのハ。日ぜ（にちれん）がふぢぐ
つきあいぬ（さてうき）だうらーい。ていめーでご
ざんさアふ。（下云）まそ。かていさんのう。（さてうき）よ
しなんそきいせんトたどこまひけそ

しょ
おてうこんかをとりいれても。[illegible]さげーこ
なんさでもおざんせこざ。どーてつつらーが
ようかをのく。ぢく。ハ。あしぎ。きしまふ
んさまーしート。ちぶーいてるちと人こた
のまれさてがおざんさら。ゆーてこんかんさ
うへ[illegible]君の作ハ何ありる[illegible]いつて
うきつてつまこと。ものこなんさ。ちーあー
がおざんさてが。こんかでんあーしてのぎて

おこんなんー[illegible]こんかをでまきして。ち
ちごろとこ
ちをはりう。きづうはゆふか。ワれーこそ麻
ハせこじん。[illegible]ひしかさ。ぶんのをでありざんさ
よトりおふ石へ[illegible]さんぎきん。おやさこ
なんけたこ。[illegible]めなみちなんざ[illegible]アり
きーしまさんがいくなんす。さこぎきんす。茶が
できいーたこあーこをつれゆておなんー。
そーておいんのあんこ人も今ゆうなんけてい

つて帰りがけにおむなんを【さてき】いまつれ
やてまいりすと。いつてやとかぜをかへ
おいくんの所てあそぶんまうと。あのんてちや
とおちぐなんー【ちたん】今までそこの
茶とさんざさで。ぱくーにのんぐと。おう
さんてねんしまいさぐはおきてむざといさず
と。さあおあもこなんー【ちたん】まつもせ
ぬ姉ちの所へいくものー【さてき】いきち

ーてワるけりやつそあかやいまねさうーなんで
もあいびなんー【ちたん】ぐつてりそもうつぶが
ぎしきの風流。的こうそて明月輝。生出堂
の家ハむのたなく。かけおハ巨勢の金岡。ちい
相ゑハ原牛万ぷ。或ハ去今やんさい集。床を
ゑハあなゑの蓬板。さんごゑのを墨ゑハ法みの
絵のをこ。京ゑの書物ゑ名木かをしバ。
ゑの湯ゑハうさじのまじの花風やかうじ。その法師ぜん

あしきまくらをしたるもの。あるは山高くて紙
屋とあつめ香をきこめる。[illegible]いろそいろがなん
すとぞ。なりふりかまはずまくらをしたるようなる
なりたちにおたかなんて[illegible]ねむつづて
あるあぶさあもちあるして[illegible]あやで
しいせ。ねりいろをしてしなみて[illegible]なのる
もあるもあるべんとうぐそまてやつて。おとんか
ん。きりとぐいろふかんさ[illegible]ゆうふい

ばかりき。[illegible]きをいなんぷつけかん
せん人ハ。まれのさまをめと[illegible]そのうつ。ふべん
とうぬきやまなん而をとんでいあて。[illegible]れ
でも志んそうしゲ。中のテでよくスみかんも
ふき[illegible]そうあ。ふるさのぶらよ[illegible]ね
しにまる人ゲこのれハ。いあてハかんせんけまで
[illegible]にるきのハかす。いろも。なのきとりよいこ
つれくとてそぎうあ。むきかんかもに。か

人をものをいふてかぎ[illegible]ト云ふをこゝ[illegible]
[illegible]ぢそ。廊下をしく。[illegible]
きんまりさんまきやうさとパぞあてく
人ぶんを。[illegible]うんぶんあるゝ者ねが。あれが
ものをパ。そんぐをのぎぎぐ。うしま
業人てこる。ありぎハなんとう[illegible]もし
ひのまりでおぐを。やりあてをぐふふ
をのと。[illegible]ぱらりぐいそぐいや。

[illegible]とふいぱまるらぐや
らふをのいをでもとする[illegible]なりか
どおれが。[illegible]男ならぬがれで。おきをの
じもかくらふが。おれがつでいらとふが
[illegible]なぐを。でばぐをものをどあも
ばとと。[illegible]てんぶんせんをうちやうぶ
をいやね。[illegible]らたねどらをパ。女よハふい
[illegible]いを。女のぎうをいやねよく

つもりてまなこへ。女のわかふ〜砂とまりて。人と
たのんでいるさうのようで。なるこの
とあるひなんとそう
あるじ　いそそれ　そしてきさいなんとよ
そやうてかちいやどと　いまし　ちやうれつまし
せん　そんあるじ　そうこがあひさきもと
れぬこと　すがなあるさうきこと　そんあ
ゆいそうぶいやいなんとす。すいせんと

おいんでごうんまよ　かんのとあるとびぎ
がまづとおそりうぶ。それけいせいとおまき
ま。おとそあるとるとあのいべまでいまはまのよ
とちぎしゆもおんやのあるとのかりと。とど
竹田がかうちとこのんを詰み作て。とそとバ
雲。まとかへせば雨とのうて。中はちあがれまあき
のあるいぶもどこといまあさいおもはとて

ぶ。今きて今とハ。それ程ゆゝしがるまうとあへ。て
ゆゝしがるハ。ゆゝしがるぬ。そのうちでそれてもこつちていわ
ぶ。二言といふかめんどゝいふもいつぬ。一同
の用。そうしと切るる物をさてぎハおぼうき。
かゝとひけバむぎんやかう出ハたりの小指。二
ふりけてすおとゝ　うつ山　こしでもうぐひ
なんとものこぶがひなんともむりあぶ。ぶ
しよがよいとゝ。ゆけとおもうあんせんもぞ

おとけハあれこあ。ぶ。先さんのおまうこと。ちうの
ゆゝけおいてぶぞ。ちうさに仰さんあぶ。
あのゆゝ。ハおまぶと。只一さに祝う。ん
あゆくとゝそぶ。そのおけゆゝおぶぶこよ
くゆうんさおまこの点。ぶうこうさ。ゆさ
ぶ。ちぶにぶくるむねのゝ。そのゆもぶきおま
のぶおのゝ。ぶきでなひせゝこぶ。おもひつゝ
るゆ小ぶび。切ゝてつぶるゆ。ゝとぶ。むまれし

つるあしをとゝ。ゑのふたきけもまきまきバ。せめてを
ニーハ。ゝをけて。ふびんとおもつてくんかんしと。
上ゝのひざをひいををゐて。りゝてひこゞれ
ふ〜ゆゞむ 【ト本】をゝふいふ。ゝを。ゝをゝれて。ゝゝ
ゞゝさハおれがゐゝひ。ゑゝて ト はふをとゝれ
て。たゞひゝゞきつあゝ引ゝて。ゝゝれてゝゝむ和色
の。ゑゝおゝゝ。ゝにゝふ。ゝゝゝハ耳ゝゞゞて
アレ下の藤ハ和まゝの。海中をあゝむゝか

祢モウ あゝてハゝゝれぬゝい 【ゑ山】 まゝいゞ
つゝゝゝ。ゝまゝ。ゝまゝ。ハ山ま。でおゞんをゝゝか ゝゝ山
へ茶やむゝひゝゝる 【ト本】 ゝゝ茶やゞきゝまゝゝゝで
【ゝつ山】 ゝゞゝんゝゝゝゝゝ。ゆゝゝゞりなんゝゝ 【ト本】
まゝあゝのゞんゝゝ。ゝゝゝかゝた。おゝゝふ
ゝゝ大ゝゞゝゝゝゝゝて茶をゝゝゝゝゝゝ
ゝがおゞんゝゝゝ。あゝゝのゞんゝゝゝゝ。
茶ゝゝてゝゝゝゝで。 【ト本】 せゝゝゝ 【ゝゝゝ】 ゞゝ

さんへ来たれば。さうとたのこひさまへ
加こまりまたよりでりく。よりハ来ま
へしよりで。中せてうしあがりく。今年佐の所正へ

○才三探宝品

よりハ猪山の。かきよ俗よ気もぶれ。秋ごと
くまさいぶふてよ。かりのおどよ俗おもしろく。
なりなど秋いとうきの。それがうかどてあびく

くしくもこそとたれ。まのすまれ浦ちどり。あ
かしのせるもねのこちそしうねぬる也の日一日。さ
んけいうもつのきたて。ゆまへハかうとあふ。ちよ
ひ
ぬまへもうさうあり。よのよしたけがつもも砂也。
人らいすてしあうまま。やちひのまもあうれ
とて。ねどわりのこもとへまりて。情んでうとうと
けのまこと秋ふあるあ。ぶんとおたれをて
ねどわり
いやよ一日ぶ。ぶんぶどうぶ。をてあ

ねぶくろぶ。ぶつとゆ。ゆきまぶ。アヽゆ。ぶり
ゆれねていますぶね。やくれ アリ ぶれます。
うのなぶ。ねておぶ。おぶをすぶ。おぶぶてハ△ません
ぶ。ぶれぶとせぶ。お耳へ入ませんまのあぶと。
ゆまぶゆまぶれぶ。ぶまぶまぶハあぶとぶ。
ぶ原さぶぶとぶてぶぶゆぶぶハあ
せぶぶ。ぶ入ぶたぶぶぶ。まハ日ぶさんあも。
ねーの牛ぶぶぶまでのとかきあ

ほぶ。ぶれもぶんぶぶ(ゆぶぶのぶ)ぶいぶものの
ぶぶ。ぶぶゆぶ。ぶぶぶぶ。ぶぶぶぶ。ぶぶぶ
んきてあります。ぶけぶぶたいぶぶ。
ぶれぶぶぶ。ぶ風ハ弟ぶぶます。ぶ(ゆぶぶ)
モフぶきぶ。ぶのぶぶます。ぶありゆぶけん
もぶぶぶぶぶ。ぶぶてモフけぶ。ぶぶアい
ぶはぶて。ぶぶぶにぶのが一ワ。ゆぶませぬ。
ぶぶでゆいぶん拝ぶて。ぶ原さぶぶ。ぶぶげ

んふやめますよう〜にあそれなら【ねだん】そ
うしやるかいふがよすぎるがけだらそれそだ。あれ
も一ぶのこまぬ。考へてみるとなるてか。やり
いくんぶでハいるあそこのぶ。ちしくふなんといふ
ふて。そちらよりさけがさんとうもなてくさ
まず。とかくよこづくせるがい。金ぶおひて。ふ
んぶ行をくても。おのづといれぬ。いつぶ
いつちきついやんぶとのまよ市へむとのかなが

さきでいこうこう。正ほをまさんとそ。あそ
入まり。やうのこまくさ【やとい】まくふ
らば為世そう。ふんぶあつこのかのとと汁
のこて【らへくへ】えあ。夜堂一ゆくて【たま】さてやとひ
もきつくそうがよりほさ【ねだん】あまもくらく
どらくすかくき【たま】それくれつけ。ほまりませハ
よう出えよりあきぶふくてて。はくらハ八月
やの。揚山みんとくぶそれさひぶのさめぶ乃

さいにもおよばぬぼっぴんでんさなるを
ゝゝへてもつかの一すうをとやうけます。ぢ
ぬゝのかまやゝ。一言ひゝなぐんぱゝびゝくのむえん
記恩ハあのえもとゝ。かゝつてなるを
むえんも一言ハきゝぶゝふゝこゝゝハむゝ
とゝやされてれバこゝあるふてゝうまきまでこし
ぶてゝこゝなもゝゝ。よゝぶゝぶゝなんぶゝぶんぬ
めゝゝとたまゝやゝに。一言の二言のゝよ

しゝゝんゝそのまゝやいゝねいゝょ。これおいゝぶゝきゝ
でゝ。いゝちゝでいさんゝせんもゝゝとゝけゝゝらゝふゝがゝゝた
きゝちゝひゝをゝきゝゝねゝひゝさゝるゝぶゝわゝゝねゝいゝ。ふゝで
とゝ。ゝゝきれぬゝゝとゝやゝ。ゝゝびゝゝゝきゝひゝゝてゝやゝぶゝ
るゝをゝ。ゝゝくゝがゝつゝてゝゝおゝゝられゝまゝす。ゝゝれゝゝこゝるゝめ
ゝふゝゝちゝゝゝゝりゝゝゝゝ今でゝも。ゝゝうゝけゝてゝゝれゝる。
ゝゝぐゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝゝ

十四五ぺきばかりかんぬの二七日ゆ
へ[illegible]てゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ばゆ。けよりゆ[illegible]
ゆ。よりゆ向後ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

がーふ。孫めうそくふくそそちまさまう
に。そのうりふハ。ひさーう命と。一日もたゆく
おむうひとらしつてかされませと。そるくと
ありてきて。まさうんせんとあげふと。
きふぐけふ。ふとをとうーうめ口のうちで一口
ふ。まうの百ハうう二十年。そるよきまで
そくゑ延命。ぐーう。すきふとと。イヤうん
ぐまうのハ。[あんどう立]うんふかそれさ。ゆすまふぐ

へむうりてぱうけもたりひうをねがふ。そ
んふやつうとおるふ。一日のうつげ
ぱ。まぐおうびをぐらふ。まうぐあしがゆうふ又
祝てだうかもたのぎふとのさ。ねれがねて
ぱうりいうと。きはがうて斗りいうと一つふて
うう。てうどいてかげんの仏ふうできるぐ
[太子]もう九つをうちまうれば。おひうまとト礼
ねふーおのがうやのとびうれうと

○第四羅刹品

八月やの名イこと。ともアヤふよう集めをし
まくの一やなてて

[伝三郎] こうし八公。かしでよこてこれをとるこ
ぞく [八助] ひさうハかしーーもいれぬ。ゑアもてこぞ
二ぬまけて。二歩きうと切ってきて。それハかし山
さんの。れひーさんのこぶーぬで。こんぞくめんが
ワるい。[九三郎] ひさうハかし山さんも申ぢ下ーも出

さらーやぢねい。なんぞうこんぞきまーぬこーぞ。[為助]
ワるきんもるとして人ぶぞが。[源助] アリ志ふのっへいを
こうるようこ家かみげきてからふのあ人ハこんふきし
て志まわーつて。如じゃ。ふけむーがつくと
志まひぞ。[四郎三] 毎ぞんかうして。振ふまきくくる
こうぶ。こっちゐって。あ人のじゃまふる。
人つけ志ぞひーきのめして。二どーー奥ぞの。
なーこいあーふきこうかいて。トはふきこうある

のあと 佐之助 もよ 姉さまそがそこのおかくさま
まつたようこうハ。はるばるこの方れえふる。つうひ
さまこかうあて。第五つもゆるしぬ。ゆるしに
内儀よりハせうれつて。今ハうゑ山ようこうも。そ
れてあるれぬ青ゆきい。わるかもうみて
糸色さま。かしのすきふこぶうして。きんぞうと
ゆいぶ寺。そしてるようゑイとの。だうとさま
かう。ひけあるもよしうと。ぜ所へうぢう

こうみ。ようてたうてあの色。わるかもうとこうぞい
で 図 ぶうとおこうこうとかよもねい。うし色い
せんどの。そうじまひの金ハ。ぞよするなぶ 図 色
てあつかまひ。ひゑ。ぶんぞゆうゑ。ゆ手
じゃこうまい。むせうこう。かうこうむばうでよ
くだいのこの。ようまいこのようひあげとも
あうふ 図 こうぐ色とバ。ゆゑ。ゆ。
たうこうぞうこうぶ 九三 こうこう

こいぶのふくろ。サアぬくとやうくぬいか
かへ地口立かう。にぎり拳のあこのれ。おそへ
られてよこパ。ねあうきこのもりさうれ。髪もこ
れて大ゝパ。むねんの涙むり時あんきう
たきーみこぶーと掘り。よこうこいさうこものが
ひつふ げふ
匹夫下郎のあよかう。かくまてて。ちゆーとう
くハ。詰伝 詰矢も見ん敵ー。ちくハそてのハ
ぎあ。あひあくと伝とこのれバ。いつくくるふく

書鬼赤鬼。移麻作華とかかる中へ。陳拔
くくてうくハれて。ゑニ二ホ大塚をつくうく
たつーとたきさ。金一包あげ切。おに
書まこの三十あ。それちくかくハくんざいめ。ひくねば
人ハのくまへ。吉のぬくまと旨こう。詰き
ひーいで地ごくの砂牛屋。ひもすれくもお
くるゑとたてみのこの芋くうめくそこ
一すんも生くきひで。ぬ大臣へいふこくあく。式

夜ごとに人をとりて食ふ。そもそも元亨ハ
よく傳る。所文を集めてすべての勅を
うけ。蒼海をしてその罪ハ。地ごく二年
すいびの苦をなめ。閻浮提の罪人きたりて。大王す
らゆるがれ。大口ぬけてなまぐさび。悪鬼ら
やつハ罪人の骨と血をのみて月ハうつ。かくまで
俄の大きく人ハ。所文のなりたち。かの所文さへ
ぐいおぐ。再びまる極罪人きたりて大変して大変年

行くゆくとおもハ。秦ごとくて千知を生ずゆゑ
なくうつ傳し西へ今ふるの名を止ず。ゆゑ
ごとなかぬ仕使。汝ものをゆるなば。鬼ど
司となすべし。義教命ずるして南西へ名づて
ゐれバ。護法の善神ハ大法王。西ごまび
しく。盗ゑるもしく思もまた。すべて地ごく
ゑ。行めんがくのごとくなるのよ。腰一
本。是一本の食ふさ。ありてもも叶ハぬ。

此海邊を歩いて。まづ[illegible]みゝ。ぞどやうれ
吸物。ふとくなぐでせいぶんとの。門あの
描めゝ。獄をぬくなぐたのまんと。思ってみ
てもちゝんとる。者ワまつくみゝ子鬼やど
又物ふつれきれば。此きを鬼がおやひつき。をにと
いかのぐりとを。赤岸。西畠ホ。ホ屋がけして。
又せをのに出せ。ホ。ホ。汐のさゝひどり。えって
ハつゝひ。きゝてハ元。汐ワてあり合三十あ。汐ホ

ゆゝくなんぎとすゝふ。ちゝちもまきあやう
ゝぐき。ゆゝくふぢゝいてこゝまつれト大門ど
てゝれ出る鬼ときくゝゝけのさい鬼。ゝ赤中元
ものどもハ右往左往ふ逃ゝれ。元も魂も失ス。
此鬼まゝの鬼よあゝ。赤田のさる大臣。宗ゝ
行伸二人とゝれ行。ハッ目の二ゝいて。鬼和ゝと
させんとて。鬼のせゝぐ鬼の面。鉄拵て用
ゝとして。ゆゝくびの鉄角と[illegible]ゝ。かゝ山ゝ

て打ぬと字十郎が大力と。きりけるに。ふ考く
のなりんぎとて。ひらすした。たのめども後者
は男ハ。後とて。かろうあった。鬼のうちと
男と変ず。三十あハかの大ら。性ふようして
ひろうれ。かくハはうひるうり

○才立轉倒品

月日ハ関ちうぶれハ。関係もけふかぶり。聖

満願の日ハ。ひろれバ。名ものうちんハ。おもひ
くのお好きて。いはにより。せものとて。こま用
性ふんの女に。一ッのこと文ふうれバ。これ女主
のひぎこと。堂内ハ。ふぎ。てんき。ぶ富ハ眉
とひうあ 和尚 抑此印文。いろた。その加ま熊坂
長範さ。強とうとあ。ぶ手。ちき伝記て
おもこうり。況末世の小ぬ人。ぬとみとうこと
れ考もようず。さうぶ。此印文。おろのばれ

とゝ多くべ。あれふくる後ぶ。もしやけゞれ
しと。ゆゝば。つまで懸げとなる。世美
の後ゝ。ゆゝあゝそ。ゆれぬ。そのじやあ。きれふ
独りのむすめあり。その。つゝさ。風俗ふ。此
きんけいのおきゆ。こんふ娘ぶ。廣にもて。ぶ
ゝず。ゆゝまたゝら。西ゝ。ときわきなゝら。賞
又。むゝもものひゝ。ゝへ。あてるとて。ゝた。ゝ。西ゝ
てゝふおゝゝ。ゆゝ。ゆゝまつてゝゝおゝ。ゝれ

ゆゝのゝゝふん。ゝゝゝぶゝいふ。ゝゝぶゝゝむ。稲荷
系話のむゝひまつかくのけゞれゝて。市文ゝ。ゝ
ゝゝゝ。ゝ。行心同ゝふ。ゝたづゝぬゝれけゝき
ゝゝゝぶゝト。ゝゝゝ。ゝゝの。ゝまゝゝゝんゝゝたゝ
ゝゝ文。ゝゝイ。ゝまゝぶゝゝかゝゝとゝゝして。ゝれど。
ゝの。ゝゝゝに。ゝゝゝ。ゝゝ。三日。ゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ。
ん。ゝゝん。ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝ。ゝ。

く。少し又と笑ひて。本国へ帰られず。何とぞ
ゝ又せんぎのうち。せちの日延と新しふ。うしねで
はいりでなきこゝろぐ。せんぎとあらば拾ふ。
よろこんでおぐらぶ 和尚 せちの日のゝ 七日 日のゝ
を作る 一説 少しふかんまへてよろこびあ
りぬべきゝゝゝゝれ

○ 才六 立情品

周逸民以國換玉齊景公以玉換女たゝし
をあふ本田より光。かの猪山が色ふそこ。於ゝ
かしさゆをあく。好ゝ付そをはふれてゝ。ゝるも
あふしぬんのゝあゝ。せんどあのつがてゝぶゝ。
ぶゝあゝ乳でぬゝ。ゝさゝ。ゝきゝぶゝ。ふゝふ
乳ゝ。今ゝろゝぶゝてゝ。ゝ色男ゝ
ぶゝにゝゝ。ひゝゝゝこゝゝがゝゝゝぬゝ。北女
さへ秋のゝゝ。まゝてきのゝの渕ハ浦ゝ。かゝゝ

ときハ川岸のぶるぎざめぬ者ハ上ハいらふる
人ふなれそめて。ぶ者ぶきふあいてはき。
つきだされそ仆ん。ぶ者ん矢詰それ
をいち。男の皮まで剥ぐふ。ゆけふなく
ど金をふ。西ぶるあれば。山上ハたくゆ事の
内罰ぶて。なるくハそのぶ者ハ八ツ裂ふ
なるそふ。れひつる男のいど。あけあそ
でおくべきやと。ぶ者ふそ。ぶ者や

かーこれぶ者ちやへ入ぶれば。明月夜元の名手。目
きくなれば。石ぶれ国あ。いち女国のいあれ。
出入の質屋ふ。ぶ千金ぶ二千金ぶ。ん妻ん
かぶ。ぶ。ぶの妻ぶいもそしくふ。ぶふの国へ
いそぎぶ。ぶ無谷の長男子のよ。勉ハん
なぶに。いづくふあハぶ父上ぶ。学問ぶ。かき
たつれば。支那ぶ。ぶにしまでいりくぶ。ぶれ
しく。父上ぶつけ。無谷右の一里塚

でゝ。ふるとゞつはのて。祓ふとゞつもぎつか。
なつけあまおんわ。いらかる天魔がハらり。
けひのゆゞりまゝふわれ〳〵ゝ人〳〵。訳けた
まゝ〳〵ゝ尊の。其印文ハ日のおに。ゝもあと
まず三柱の神宝。一ツもかくしぬかなゝの三足
サア印文ハ助ふ。おりゝしわれゝ。むりふけ
ゝゝ。父の乱をゝ引まゝゝを両国橋まて来
らゝ。【下ゝ】コレより助。おれもはゝこゝハちきいが

言ハ。私ゝつまゝゝゝもんりゝゝゝい。ゝゝ。ゝゝ
て如ゝ本ハの。ゝゝゝとたのんでゝれい。おれハその
ゝちゝゝかゝ。ゝゝゝまゝてゝるゝわ【下ゝ】ゝりわ
物ゝ第百ふかゝゝ。ゝゝ。ゝゝハ下品。でふ。ゝハ
の二ゝハ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
げふゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
百ゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝなゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬどりよ。先つくりとおもふ。ぬどりは
のつまけんねどやうなるハいまあるぬきまのやうひ
ふりつけをぬのようなまぶいつくあるわ
かこでてくさしてだものづくりもせまくあり。
つまくぬくおのかくりぬのけいをいとりけ出
してはりさく山の奥でかふりこくがう
んまくぬ。ぬ下文まで。をのもーに。それもがう
ぬにれもくさし。仔あんがくふ世まーぬ。ぬまの

やうひよ。ぬむりん。まくもんかくいくれぬけ。
くれふつけてもうつ山ぬ。今ひくびのりかくぬ。
くうれまくでぬ。ぬくよまでくゆれねばもーこ
むくくあとあ。ぬ。ゐるくせひよりなくバ。ぬの
いくるくもわくあと。のがくつくそハ蚕のやう
ばふやナぬのがうさ。ぬを蚕くはくよくハ。そ
のわ業でせひふくれ。まくて女ハ蚕の。切
ひきくれぬ下んくのくの糸のもくれくぬにより

ふこせてかぜもしうは山ハ。ふてあひてゑしてのはち。
みのあとバふる雨のぞくてゑもうは日ふ上うふい
れをーたる質の稲。まえこゞゑのえつきさく。
張ふれば接くゑ。中ゑ丁へも出くれぞ。無の
病ゑ者とやめてぞくてくと床のうちぞもつく
いもぬーゑ。おくへハけつくれいがそあふ
そうれぬ口あくふつくきくゑくら
わーい。それ口じがふてかゑ。ゑてゑ死ぐく

けんぐい。今ゑたひもつくぞくとれなーのと
ゑぐかくの。ゑ行ぐきくふ死おくふ。やあて
くくゑを一名ゑ法のゑふするくゑよ。ゑで
つくくて病くゑ。ゑふーも康の人名もきれ
てい世とわくくゑ。ゑくでつあくおいあくんや。
ゑくぐんへ新ーハ。いくうふふくふゑくと。
やぐすゑくくゑ四ゑ。つゆけく法ゑいくゑ。
かあいらーいやくくんで人ゑもあてくくゑ。

てゝ。ぶてゝこふ。ぶてゝ。ぶもいてゝも水の
あと。ゆーゆーひとの人。あともつゝれぬ
方のいんぐさまをいふるむらひぐ。ぶき匠
たるわゝに。あてゝおもふ人八のもとんぐ
ぶーぶたゝ。ぶゝ。此色のねいろとゝもぐ伝。二
ひのまへのせしをかゝあ。ぶれが新いな
げのぶれとおもへど。つゝぶゝ。もしわ人まぐのこと
もやと。新造のきゝらハ。ミせのかゝ此ぶるゝ後

ふのせー色彩。かのおも像のむかもとくさしつけ
れがつゝ。後のふるるの色とぶれ世ぶふ
ぶゝれどゝ。ふかしーふる者ての。ふかふきた
いんふ。おゝ心の天下一又一曲と而色ーて。二
ふへ上ゝ去ゝくの。ぶゝ世ふもあす一色八。此多
ぶれふ世此。君とまりやの人まぐ。ふふる
此ふ色彩。まゝおむ像ふつゝれば。新鶯
くと吟し。ふ月ふぶゝ。ふ世の。ぶゝ読

心虫霊。こまの猫のまついぐさ。つゝれ吹く
る秋の声。叶ゝられゝとまちてみよかし

○寸七前生品

秋色蕭瑟ゝ。此夕ぐれ。すぐの砧ふきぬ
のかねまぢてもてゝる風の音。つゝれふつゝて
り出。ふ作廊の名はさぶおいかぐれ
中ゝ。松屋ぐ名ん小こゝちかけ。弟とおぐと

かこゝ牛。つゝあぐきかのゝきくぐひ。十八年の
まゝ秋心。おゝゝバもきゝ愛ゝ。おきゝめか
ぐ口ゝゝれあ人とのこゝて志あゝゝバせゝひの
いゝ人ゝとゝ。ゝゝ。ゝひかゝひ口切ひ。弟の
なるゝゝとあゝれゝも。ゝゝバたゝひも志ふん
ゝまい。これ行ぐ。ゝ百ぶ一。あつちにまゝが
つゝふゝばゝんふゝふもなゝまいふトなゝゝと
モフゝ一ハ尺ゝゝふゝものあゝゝぐぶいと

かいどう。まつさかりでいても。ひろく結
ばけ。ようわるそうでいこつのるまいらもそう日ぐれて
ゐもつのるふぜあるまきてゐれさぐよいぞうハつ
らひふこと此名ハ。なぜわるいハ事。お
どふきこと。くてい。ぐんぜるきこそいぞ
しへ。ようこうもかはてよう。ようひかぎらおのひ
ゐる。ぞくをきハ色しかげろふの。色ハ自在も
恵ふきく。今ハこの名もしく。ふ。ゐきこふし

の結出ふ。あ宝をせめてのこしまふ。松屋の新
七さま月ふこれと月ぞ。ぞくこえてこるかゆ山ふ
んききハ人見せく。急ぎ二階へ上てゐれ
ハ影くこうふ。思ひわるハうきあで。
ぞと詠よりよしふ。一間ハ影のかゝ紙。
こうあひふ。ようこつのふつまこうふ
まこうもの。ともいこでこうしが。今ハむね
あこうくふ。そ一ようそよ。光のひふ

ひまを一まうきつき。なやぬなるぶかいく
事。いさぬハおかゞ[illegible]れた。一ツおまひの
よ一ゝも。千こふらぐゝもぬのゝち。[illegible]
時とゝ[illegible]ゝ。やゝ。あゝてゝ出。涙を紬
ふせきゝゝて。どゝ[illegible]でやめて今一ど。ゝ
ひ一ゝトなゝてかね一こつもおびていたきゝと
おざんさゞ。なせゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ
一面と神ふかゝてゝゝゝの。扶へゝゝ。ゝ今

ゝゝゝあゝ。扶とゝゝゝ[illegible]れゝ[illegible]ゝ。たゝゝ
じふゝゝ。ゝれふゝとひゝふきく。右ゝ白
ゝで結おゝきれバ。[illegible]ナシ。かきゝ。扶
ハ書ぬ乳でいゝゝゝ。おれもかくこゝきハ
めゝ一面ゝゝまこの右れ扶とゝれ。[illegible]
ゝれへゝとゝゝめゝんそびゝゝ。ゝも書お
き。ゝンナラその乳でおざんゝたゝ[illegible]ゝゝ
とハ書ゝ[illegible]ゝしハおまへと[illegible]おしハゝゝ

たと　[ろ山]らんでだろう　[ゆてい]ゆてたきさら
[ろ山]そんあるあで。二ゆふきんで　[ゆてい]一ゆふ
まれ。さきは世で　[ろ山]つしそうてくぶんきてうと
[ゆてい]いつもゆおとおとの懐刀。ぶの利鈎
えれん
と訳会ー。さしいぶくんとるゆふ。大門の方
こへさら
ゆう声をく。ちぶくく　[ろ山]さきくくゆシバラク
いまこころ
[ゆてい]今床のこの事に赤ぶくく声けい
[ろ山]どうさんでおぎんまく赤くくリトなよ

くふて出まるハ鮫をるかげるるおれ
やとゆゆーー出ゆふ男ともとりにぶ半兵衛。光明
かぶゆく中ゆ下。風俗高くとつまるて。今ハ
もんく
文字のゆ事ぶく。訳男清至のゆう表で。
ゆふ
業内もなくゆゆが二階へよりゆばよりハ。
わげ
通ニまれぶ通ハふく。きくとまれど動き
ゆび。ゆうゆふんとりぶ。かぶとのくでか
えれる。訳是はまるるまるゆ。海かり山

がまあせの悪縁と。同じく鄙の越歌をさいぐ
のうちに新句とのうちに微妙の言葉
いぐ言葉原しく雨も降るなり。ぬすまハ降るなり降れ
りて。今月山とうちがのうまで。乙今生ぬを
ふつて。八月芭蕉出者うる時。月山ハその微
風。八月出者のおもてめてがう。海と出ぐ。
病ふかてむかしくなる。言ぐの一念消ぐ。
ぐ世ぐふきまう。先ぬ挑ぐとれんく

あるぐ。八月出者がむかうある。其ぬあぐの孫ぐう。
今八月風がかくふる。又ハ乃ハ月山ぐ昔
ぐの伯父ぐ倉抜士とくぐ。ぐう沢宗
蕉風ぐ尾ぐ。
のぐんぐいぐ。ぐうかぐまれて先きぐ月芭蕉こ
道ぐ救ぐ。ぐう。ぐう八月ぬの。挑歌
と助ぐる。宗十郎ぐ前生ハ別沢宗ぐう。
乃ハ尾ぐ。ぐう光ぐう。

のあるものどもハ。たゞふぶのやんごとなき
ものにて。何のもの。さ去因縁のあるて。その書籍
とのぞむ。ハ。然るに。京文にて加持せよ。ゆゑ
河よりん。ゆゑ。京文をもて。ゆゑ。
し光ゞ。ひゝいへ。あてゆゑ。ゆゑ
執念解脱して。ゆゑ。ゆゑ
ハゝと今をゝ。ゆゑ。ゆゑ
とゝ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

孫で。ゆゑ肥の。ゆゑ。ゆゑのゆゑ大悲の水。京文と
ゝ。そのひゝ。ゆゑ。ゆゑ。たゝ。
かゝ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ
ゝゝ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ
も。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ
ゆゑして。今京文の。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ
ゆて。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

このうたてート方ゝ
もよりの亜係とかけとき。朝ゝ香もしよけーゞ。
武衣は美ふよりろ〳〵れ。いふかの山あるふゝあと
ゞてたもらはれーしが。そちら色男でゝえゝと咲ハ。
あしが色もとかそはれ。それ小一ト〻ひせられき更かは
りてとゝるゝ色がつひ。幸多日のあまみも。さび
しがておゝゝれバゞゝ。ゞあれとばゝめてれて
ゝ〳〵との去ふよ。けられーあもゝ。ゝるいあーゝ。多日

[illegible]
[illegible]
いふよりゝうけの日延
しを。つしゞ[illegible]も今日切り。[illegible]
ハ。田舎ゝも[illegible]ふ。もちゝにして来ま
ゝ。ハゝ[illegible]ハ換ゝ[illegible]ふあゝゞく
ゝの系張ハ堂内ふ錐もたゝゝ書と
咲て上意とさゝ。水とゝ[illegible]て息とたゞす。
西國の橋さゝも。ハゝゝ[illegible]ゝゝ。かゝも
群集いやゝて。人死ゝ[illegible]ゝ。助け[illegible]

ふぶうてハ法華経ハ。先ッけさ切りふ[illegible]
ーて。おしもちっとはまふあれバ。もとよりぶ
ぐるみぶぐ。低俗さいぶかるぐ。凡中三
ぶ一ケ南蛮。この三界の低俗が。陰肉此
[illegible]を説去ぶさ[illegible]も非ふとくらちんと。
さまふふ[illegible]ちんその時ハコレあ[illegible]
ちぶ耳ふ口。何ゆきやきゆ[illegible]而へ[illegible]
ぶけあるる裏紙。[illegible]

がりちんぶトうけとあて
れより弗二巻目千金根ぐぐ
ちぶは[illegible]向とちあん。[illegible]て
目ふうけまちふ